
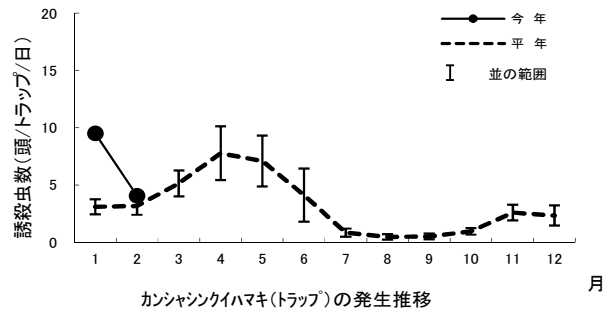
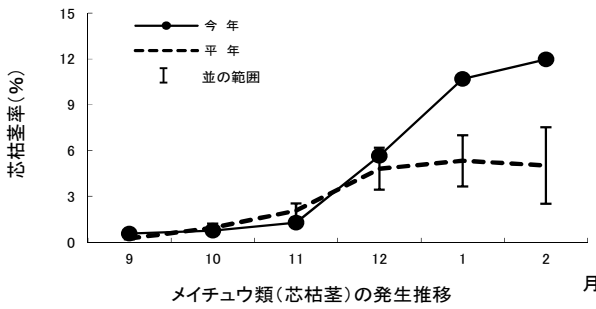


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
2月の発生量 (現況)		多	
3月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。	

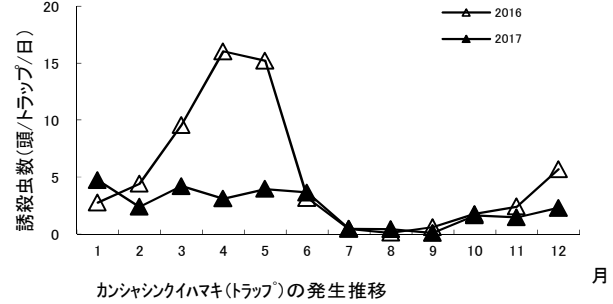
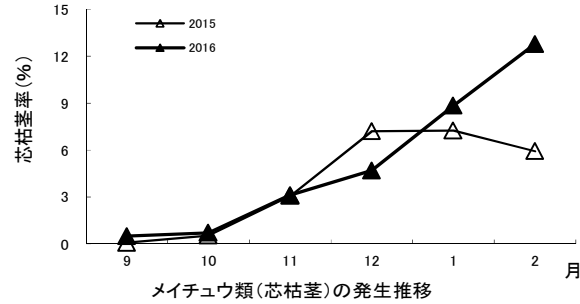
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 2月上旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は12.0% (前年12.8%、平年5.0%) と平年より高かった。また芯枯莖切開調査の結果、確認された幼虫のうち25.7%が本種であった。
- ・ 2月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.1頭 (前年2.4頭、平年3.2頭) と平年よりやや多かった。
- ・ 防除員によると、波照間島及び与那国島でメイチュウ類の被害が確認された。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

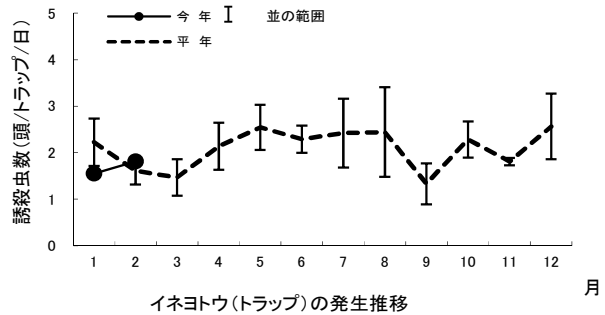
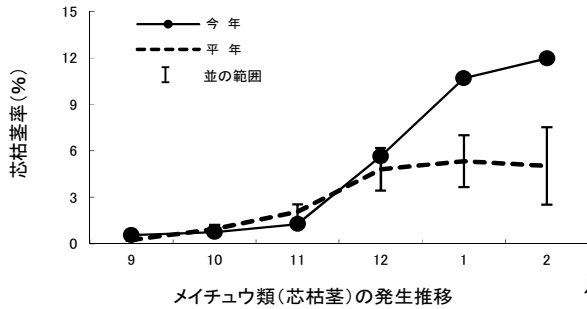
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、莖と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植付時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
2月の発生量 (現況)	多		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

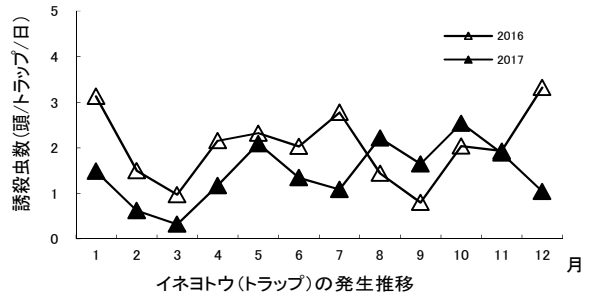
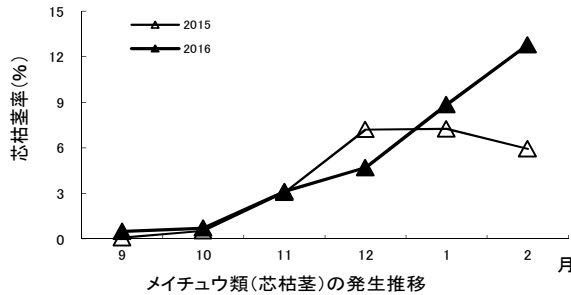
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 2月上旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯莖率は12.0% (前年12.8%、平年5.0%) と平年より高かった。また芯枯莖切開調査の結果、確認された幼虫のうち74.3%が本種であった。
- ・ 2月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.8頭 (前年0.6頭、平年1.6頭) と平年並であった。
- ・ 防除員によると、波照間島及び与那国島でメイチュウ類の被害が確認された。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は莖と葉元の間へ散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 定植及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。